

The 8th Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics

Thematic session: Carbon Pricing in East Asia

開催報告

2019年8月4日に北京大学で開催され The 8th Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics (EAAERE: 東アジア環境資源経済学会) において、早稲田大学環境経済・経営研究所が主催のテーマセッション「Carbon Pricing in East Asia」を開催しました。

本プロジェクト所長の早稲田大学・有村俊秀教授が座長を務め、同氏の挨拶でセッションは始まりました。最初の報告者である Duan Maosheng 教授 (CCMC/ Institute of Energy, Environment and Economy, Tsinghua University, China) は、「Performance of the Pilot Carbon Emissions Trading Systems in China」と題した研究報告をしました。本研究は、2013～2014年に運用を開始した中国の ETS の影響を評価しています。



第2報告者である Oh Hyungna 教授 (Department of International Studies, Kyung Hee University, South Korea) は、「Does Allocation Attribute to Altering the Productivity of CO2 Emissions?」という研究について報告しました。本研究は、対象事業所の CO₂ 利用の生産性が韓国排出量取引制度の第1フェーズの間に変化したかどうかを調査しています。特に、生産性が ETS の採用や過剰割当によって影響されるかどうかを検証しています。

最後に有村俊秀氏によって、本プロジェクトの成果の一部である「The Impact of Tokyo Emission Trading Scheme on Commercial Buildings: What Factor Contributed the Emission Reduction?」を報告しました。本研究は、東京排出量取引制度が商業ビルの排出削減に影響を及ぼしたかどうかについて検証しています。本セッション全体として、東アジアのカーボンプライシングに関する現状や課題について報告者と参加者との間で有意義な議論を交わすことができ、盛況のうちに終了しました。



本セッションで報告された研究論文は、EAAERE の学会誌である Environmental Economics and Policy Studies の特集号「Carbon Pricing in East Asia」に掲載される予定です。

